

「第5回 可視赤外線観測装置技術ワークショップ」

開催趣旨：

装置開発においてグループ間での情報共有や連携、技術の共通化を進めることは重要であり、本ワークショップは可視赤外線分野での装置開発を念頭に、技術・情報の共有促進を目的として開催しています。5回目となる今回は第35回天文学に関する技術シンポジウム(主催:国立天文台)と連続する日程で開催し、「次世代望遠鏡」の合同セッションを設けて情報共有を図ります。

開催場所、日程：

東北大学理学研究科 青葉サイエンスホール

2015年

12月7日(月) - 12月8日(火) 観測装置技術ワークショップ

12月9日(水) 装置ワークショップ・技術シンポ合同セッション

12月10日(木) - 12月11日(金) 技術シンポジウム

プログラム：

以下のようなセッションを設け、数件の招待講演と一般講演(口頭+ポスター、口頭、ポスター)を行います。

- (1) 可視赤外線装置開発プロジェクトの現状と課題 各プロジェクトでの取り組みと最新動向。各プロジェクトからの課題の提案。
- (2) 光学素子・機械素子の最先端 各グループや企業それぞれが得意とする技術の提示。各グループの課題の解決法の提案。
- (3) 「次世代望遠鏡」合同セッション 次世代望遠鏡に関する技術開発。

このセッションは以下の招待講演を中心に構成します。(敬称略)

- * TMTの概要と日本のセグメント主鏡の開発状況：山下卓也
- * 南極赤外線望遠鏡の開発：市川隆
- * ハワイハレアカラ望遠鏡による惑星大気的光赤外モニタリング観測：坂野井健
- * 京都大学3.8m望遠鏡で培われた技術：栗田光樹夫
- * 東京大学アタカマ天文台(TAO)望遠鏡：峰崎岳夫
- * 極限計測技術で拓く新しい天文学:重力波望遠鏡 KAGRA：麻生洋一
- * ALMA 受信機開発・製造・その次：藤井泰範
- * 赤外線望遠鏡衛星 SPICA：(現在交渉中)

講演募集：

本ワークショップでは装置開発の現状や課題の紹介、周辺技術、要素技術についての講演を広く募集します。特に大学院生の現在 進行中の研究に関する発表や技術系職員、関連分野の工学系研究 室の発表も歓迎いたします。

参加・講演・旅費の申し込みは

<http://tech.nao.ac.jp/tech-sympo/2015/form.html>

より 11月15日 までに申し込みください

ご意見、ご要望は世話人 (astroinst2015_at_astr.tohoku.ac.jp) までお願いします。

世話人：

秋山正幸、坂野井健、岩田生

市川隆、臼田知史、海老塚昇、岡田 則夫

尾崎忍夫、片坐宏一、栗田光樹夫、菅井肇

高遠 徳尚、高見英樹、宮田隆志、本原顕太郎

森谷友由希、吉田道利、和田武彦 -----